

トラスツズマブ+XP療法

+ 大津赤十字病院 薬剤部

【治療スケジュール】

以下のメニューのおくすりを3週間毎繰り返します。

以下のメニューのおくすりを3週間毎繰り返します。				← 1クール →		
				第1日目	2～14日	15～21日
薬剤名	外観	液色	薬効	投与方法	点滴	点滴
① 生食注		無色	水分を補給します	↓ 24時間・点滴	お休み	お休み
② 生食注		無色	水分を補給します	↓ 2時間・側管点滴		
③ トラスツズマブ注 [®] (トラスツズマブ)		無色	細胞増殖を抑えます。	↓ 30～90分・側管点滴		
④ 生食注		無色	お薬を洗い流します。	↓ 全開・側管点滴		
⑤ パロノセトロンバッグ アロカリス注 デカドロン注		無色	むかつき、吐き気及びお薬の過敏症を抑えます。	↓ 30分・側管点滴		
⑥ 生食注		無色	お薬を洗い流します。	↓ 全開・側管点滴		
⑦ シスプラチン注 [®] (シスプラチン)		無色	細胞増殖を抑えます。	↓ 2時間・側管点滴		
⑧ ソリューゲンF輸液 フロセミド注		無色	尿を出しやすくします。	↓ 4時間・側管点滴		
カペシタビン錠 [®] (カペシタビン)			細胞増殖を抑えます。	1日2回 14日間・内服		お休み

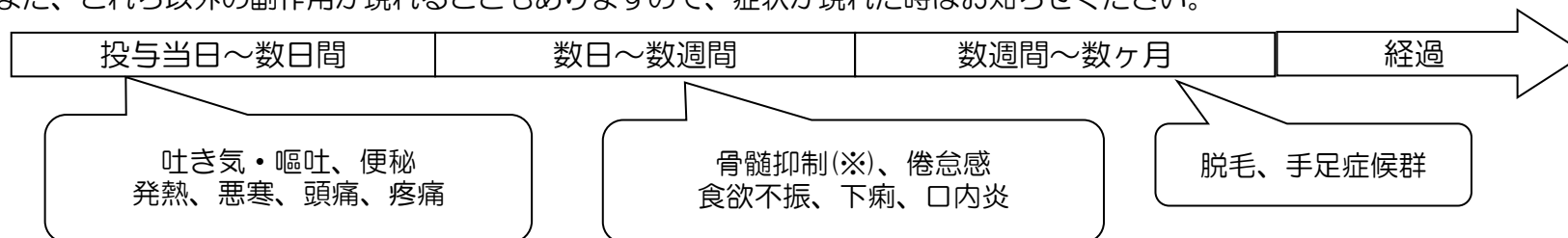
※お薬の投与速度・投与間隔が変わることがあります。また、症状に応じてお薬を変更・追加・削除することがあります。

【注意事項】

点滴中は安静にし、注射の針を刺している部分が動かないように心掛けてください。お薬が皮膚に漏れると、針を刺している部分に違和感や痛み、腫れ、赤み等が現れることがあります。このような症状がありましたら速やかにお知らせください。
また、このような症状は点滴終了後や、しばらくたってから起こることがありますのでご注意ください。
腎臓の機能を守る為、点滴の投与日および翌日はできるだけ水分を補給し、こまめに排尿するように心掛けてください。

【副作用と発現時期】

ここにはあくまで一般的に予想される副作用が、いつごろ現れるかをお示ししています。
これらの症状が必ず起こるということではありません。発現頻度・程度・時期には個人差があります。
また、これら以外の副作用が現れることもありますので、症状が現れた時はお知らせください。



※骨髄は、血液成分である白血球・赤血球・血小板等を産生する臓器です。
骨髄抑制とは、その機能が低下することを言います。

【注意が必要な副作用】

次に示すような副作用が報告されています。下記の症状が現れた時は医師または薬剤師へお知らせください。

- 骨髄抑制 : ★38℃以上の発熱、咳、下痢、排尿痛・残尿感、性器痛、肛門痛、鼻血、血便・血尿、歯茎出血、腕や足の赤い斑点、疲れやすい、めまい・息切れ
- 過敏症 : ★呼吸困難、じん麻疹、眼および口の周囲の腫れ、冷汗、頻脈
- 消化器症状 : ★突然の激しい腹痛、背部痛、重度の下痢、脱水症状、もたれ、胸やけ、吐き気、嘔吐、食欲不振
- 心障害 : ★呼吸困難、足などのむくみ、咳の増加、胸痛、みぞおちや頸部の締め付け、圧迫感、冷汗
- 腎障害 : ★顔・手足などのむくみ、尿量減少、尿が赤みを帯びる、体重減少、口の渇き、高度の蛋白尿
- 肝障害 : ★全身倦怠感、食欲不振、疲れやすい、腹部不快感、黄疸(皮膚や眼などが黄色くなる)
- 脳障害 : ★突然の激しい頭痛、意識障害、歩行時のふらつき、四肢末端のしびれ感、舌のもつれ、うまく話せない、けいれん発作、精神状態変化、視覚異常
- 肺障害 : ★胸痛、意識障害、呼吸困難、(空)咳、発汗、発熱、ピンク色の痰がでる、尿量減少、むくみ
- 抗利尿ホルモン不適合分泌不全 : ★全身倦怠感、無気力、眠気、意識障害、昏睡
- 横紋筋融解症 : ★筋肉が痛い、手足に力が入らない、尿が赤褐色になる
- 視覚障害 : ★視力低下、視野異常、色覚異常
- 聴力障害 : ★耳が聞こえにくい、耳鳴り、高音が聞こえにくい

連絡先 大津赤十字病院

TEL 077-522-4131

平日8:30 ～ 17:00 受診されている診療科

平日17:00 ～ 翌8:30 及び 休日 救急外来

手足症候群とは？

手や足の皮膚が障害されることで起こる副作用です。
放置すると、以下の写真のようにグレード1から3まで症状が悪化します。



皮膚の紅斑と知覚過敏はあるが、無痛性



腫脹を伴った紅斑で疼痛を伴うが日常生活に問題なし



腫脹を伴った紅斑で疼痛を伴うが歩行に問題なし



亀裂、潰瘍等による強い痛みで歩行困難となる

外用薬の塗り方（単純塗布法）

★ポイント

- 外用薬を塗る時は、必ず手を洗いましょう。
- 狭い患部に塗る時は、指の腹を使い、広い患部には手のひらを使います。
- お薬をすり込むのではなく、皮膚に刺激を与えないようにやさしく塗りましょう。

外用薬の塗布量

手のひら2枚分 もしくは 足のうら1枚分を塗る量として、軟膏は人差し指の先から第一関節まで乗せた量、ローションは1円玉大の量が目安となります。



手足症候群に対する治療薬について

★以下のお薬は、皮膚の症状を予防するためのものです。

医薬品名	用法用量
ピドキサル 錠	1日2回1回1錠 服用
ヘパリン類似物質 クリーム	1日6回 手のひら・足のうらの保湿

★以下のお薬は、皮膚の症状が出てきたら使用して下さい。

医薬品名	用法用量
アンテバート 軟膏	1日2回 手のひら・足のうら 赤み・痛みが出た時に使用

★お薬を使用する際の注意点

- 2種類の外用薬が処方されますので、使用部位や回数を間違えないようにしましょう。
- 外用薬を重ねて塗る場合、保湿薬→ステロイド薬の順番で塗りましょう。
- 別に医師の指示がある場合は、指示に従ってお薬をご使用ください。